



1



2



3

- 1 地域おこし協力隊 北島さん
- 2 下丁区長 井坂さん
- 3 若衆頭 山野さん
- 4・5 下丁踊りの練習の様子



4



5

自治会って、いいかも。 下丁区 「知っている人がいる」安心感

下丁区の自治会で地域活動に関わる皆さんです。

下壹丁目区会（下丁区）に加入した地域おこし協力隊の北島有花さんが、潮来祇園祭禮を前に行われた踊りの練習に参加すると聞き、取材に伺いました。

会場では、子どもから大人までが声を掛け合い、踊りを教えたり、教えてもらったり。世代を超えた交流が自然に生まれていました。

**「知っている人」がいる安心感
地域おこし協力隊 北島さん**
自治会に加入したきっかけは、近所の方からの声掛けでした。「ゴミの出し方など地域のことを教えてもらった、助けてもらったりしました。何かあったときに『知っている人がいる』という安心感があります。」
加入を迷っている方には、「付き合いをしないと、と身構えずに、気軽に入ったらいいと思います。最後に助けてくれるのは人だと思います」と話します。

**無理のないお付き合いから
下丁区長 井坂 安則さん**
下丁区では、お祭りのほか、地域の清掃活動や運動会、餅つき大会など、幅広い世代が参加できる活動を大切にしています。「声を掛けて、来やすい環境をつくることを心掛けています。自治会から声を掛けますが、本人に負担が掛からないよう、無理のないお付き合いをしていきたいです。それがきっかけになって、少しずつ深くお付き合いできればと思っています」世代を超えた交流には、目上の人への礼儀や、上の世代から下の世代への思いやりも生まれるといいます。

**みんなでつくる、地域の「財産」
若衆頭 山野 寛隆さん**
下丁区の地域活動を語るうえで欠かせないのが、潮来祇園祭禮です。
「高齢の方から子どもたちまで、一緒に力を合わせて行う地域活動は、このお祭りしかありません。地域にとって大切にしていきたい『財産』です」参加者を増やすために心掛けているのは「常に笑顔でいること」。「難しく考えず、ちよつと来て踊るだけでも楽しんでもらえと思っています。この下丁の祭りを見て、『参加したい』と思ってもらえるような祭りにしたいです。」

広がる地域のつながり 育成会
「子どもが自分の親以外と関わる機会が少なくなっている中で、いろんな人がいることを知る機会になっています。他学年の子どもたちと遊ぶことも増えました。お祭りの期間は『地域で子育てしている』ことを感じます」育成会会長のお子さんもお祭りの楽しさをこう話してくれました。「久しぶりに学校の友達に会えたり、一緒に屋台を回ったり、踊りを教えたり教えてもらったりするのが楽しいです。町内によって踊り方や使う道具が少し違うのも面白いです。」